

常なる磐

つねなる いわ season II
令和3年9月17日(金)

◇ 新生 ギョギョランド池 (自然を生かしたビオトープ)



左の写真は1学期に行った【クリーン作戦】の一コマ。玉網(タモ)や十能(じゅうのう)を上手に扱いながら、赤帽子の1年生も頑張っている。しかし、よく見ると、非常に危なっかしいのが分かる。ひやひやものだ。

□を拡大させたのが右の写真。

問題は、ギョギョランド池自体なのだ。



石の街「常磐」らしく、ギョギョランド池の縁(へり)は、大きめの石をモザイクにして貼り付けて彩られ、施工当時のお洒落な工夫の跡がうかがえる。けれども、年月の積み重ねによる風化と、多少の土があれば自生する植物のたくましさに押し切られ、石板が浮いたご覧のような有様である。場所によってはモザイク片の欠落さえ確認できる。



体育館の南東面を囲むように位置する「ギョギョランド池」は、多くの学校にある「ため池」とは異なり、水が循環する【ビオトープ】であるのが特徴だ。しかも、人工的に作り出す水流がそのほとんどであるのに対し、山からの水を巧みに利用している本校のタイプは極めて珍しく、貴重な代物である。

しかし、いかに貴重だとはいえ、危険との隣り合わせでは……ということで、岡崎市に依頼して修繕してもらうことにした。

岡崎市の回答は、開校後に何らかの理由で学校（PTA・地域等を含む）が設置したものについては、管理だけでなく補修等についても、学校（〃）が責任をもってやってほしいといとのこと。…はてさて、困った。

ところがである。 思い当たる節があった。

昨年の開校 120 年記念式典を迎えるにあたり、「開校 100 周年記念誌」を見た時に『確か、池があったような…』。 ドンピシャである。

移転新築当初から池があったこと(写真の➡の先 ※当時の中根鎮夫市長も確認できる)を確認し、折衝の末に岡崎市が対応してくれることになった。



そして工事を終えた「新生ギョギョランド池」の姿は、下の写真のとおり。



上部のモザイク片を全て^{はっ}り、土を取り除いた後にモルタルで処理してある。さらにモルタルの仕上げは、表年が乾く前に刷毛で長手方向になぞる。敢えて表層に「ざらつき」を作る。【滑り止め】である。作業が丁寧である。

加えて、左写真の➡には、高速速乾のジェットモルタルで水漏れ処理まで施していただいた。

最後の仕上げは、山田校務員が上部をシルバー色に塗装。丁寧な仕上げにより池が際立ち、安全性は格段に高まった。【新生ギョギョランド】。ご来校の際は、是非ご覧いただきたい。

そして 9 月末、いよいよ【白亜の校舎】に向けた校舎外壁塗装工事が始まる。